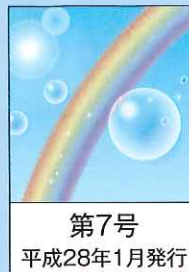


# ぎふ地域の絆づくり 支援センターだより

地域で活発な活動団体を紹介します!



第7号  
平成28年1月発行

清流の国ぎふ

岐阜県環境生活部環境生活政策課  
地域コミュニティ室  
ぎふ地域の絆づくり支援センター  
〒500-8570  
岐阜市藪田南2-1-1(県庁6階)  
電話 058-272-8199



## 13 美濃加茂市古井地区多文化共生推進座談会

事務局：〒505-8606 美濃加茂市太田町3431-1  
美濃加茂市役所内  
座長：渡辺 勝則

### 地区の概要

美濃加茂市の全住民に対する外国人の構成比率は約7.3%と高い(総人口55,762人、外国人4,089人)。中でも古井地区は約11%と市内で最も高い地区である(平成27年12月1日現在)。この古井地区を中心に、住民が主体となって、外国人とともに暮らしやすい地域づくりを推進している。

### 主な特色

#### ●外国人と互いに顔の見える関係をつくり、住みやすい地域づくりを推進

平成20年度に美濃加茂市で「第1次美濃加茂市多文化共生推進プラン」が制定されたことを契機に、地域に住む外国人と顔の見える関係を築くことを目的として、地区の自治会や民生児童委員協議会などの地域団体と外国人の団体らに呼びかけ、多文化共生について話し合う「座談会」を、美濃加茂市の企画のもと住民主体で発足させた。

まず、日本人と外国人が、互いに思っていることを率直に意見交換し、課題を整理することから始めた。浮き上がった課題を解決するため、具体的にどのような活動をしていくかを座談会メンバーの各団体が企画して実践している。座談会の構成団体と主な活動内容は次のとおり。民生児童委員協議会(就学援助の相談等)、体育振興会(スポーツ行事を通じた交流)、川合西3号自警団(外国人と共に防災・防犯活動)、外国人の母親代表・小学校のPTA(保護者同士の交流)、NPO法人ブラジル友の会(ポルトガル語教室)、美濃加茂華友会(中国語情報誌の発行)、NPO法人美濃加茂国際交流協会(日本語教室)、多文化共生アグリ交流グループ(ブラジル野菜の栽培)、田畑東自治会(住民同士の交流会)。

#### ●活動報告会での交流を通じ、今後の活動に向けた課題を共有し意見を交換

毎年1回、座談会メンバーの各団体が年間の活動実績と、活動を進めるうえでの苦労話や今後の活動展開について発表し合い、意見交換を行っている。ワークショップでは、会員が複数のグループに分かれ、「自治会」「学校教育」など、さまざまなテーマで話し合い、各グループとしての意見を発表し、共に考え、今後の活動に活かすためのヒントを取り入れている。参加者からは、「座談会の活動を継続し、もっと多くの市民に知ってもらい、多文化共生への理解を広げていきたい。」「地域の外国人に配慮した取り組みを進めることで日本人にとっても暮らしやすい地域になる。」などの意見があった。

活動報告会の様子



### ポイント 外国人とお互いに顔の見える関係をつくり、共に歩み寄って、住みよいまちづくりを推進

地域の多くの団体が交流できるこの座談会を通じて、外国人とお互いに顔の見える関係がつけられ、住民同士が率直に意見を交換できている。各団体の取組を情報共有し、今後のそれぞれの活動に活かすことにより、多様な人々をつないで社会参加を促し地域力を高めている。国の習慣や価値観等の違いを理解し、お互いが歩み寄って一緒に暮らしやすいという意識の醸成が進んでいる。

### 今後の展望

古井地区の座談会の取り組みをモデルに、市全体ひいては県全体に、多文化共生の地域づくりが広がっていくことが期待されている。座談会座長の渡辺さんによると、多文化共生社会の推進には、地域におけるキーパーソンの育成が大切なポイントであるとのこと。座談会の活動を通じて人材を育成し、最終的には、多文化共生という言葉をなくしていきこうとスローガンを掲げ、日々活動に取り組んでいる。

# ⑭ 恵那市三郷町「みさと愛の会」

活動拠点：恵那市三郷町野井公民館  
〒509-7123 恵那市三郷町野井1987-2  
会長：宮地 政臣 副会長：坪井弥栄子

## 地区の概要

三郷町は、恵那市の西部に位置する人口2,494人、858世帯、高齢化率33.68%（平成27年4月1日現在）、中央アルプスが眺望でき、雄大な田園風景を誇る町である。三世帯同居が多く、地域住民で支え合って地域を守っていくという気持ちが昔から引き継がれており、住民同士のつながりが強い地域である。「みさと愛の会」は、少子高齢化の進展・生活環境の多様化が進む中、高齢者にとっても、また、子どもを持つ若い親世代にとっても暮らしやすい地域を目指し、住民同士の支援活動に取り組んでいる。

## 主な特色

### 1 高齢者の暮らしをお手伝い（高齢者軽度生活支援事業）

高齢者にとって負担を感じる、ごみの搬出、簡単な修繕、自宅周りの庭木剪定や草刈りなどをお手伝いする生活支援を行っている。会員登録制をとっており、ボランティアとして協力できる人を「ボランティア会員」、生活支援を受けたい人を「依頼会員」、仕事の都合や家庭の事情で手伝うことができないが協力金という形で支援する人を「賛助会員」として、それぞれ会員を募集している。手ごろな利用料を取り、ボランティア会員は交代制で仕事を分担している（26年度の実績はおよそ100回）。



暮らしのお手伝いの様子

### 2 介護予防のためのいきいき教室（生きがい活動通所事業）

市から介護予防を目的とした事業として、地域福祉ボランティア団体では初めての委託を受け、家に閉じこもりがちな独居・昼間独居の高齢者を対象に、心身の健康増進と交流の機会を提供するため、公民館まで送迎付きで週に1回いきいき教室を開催している。活動内容は、お茶を飲みながらおしゃべり、健康体操、レクリエーションや手芸など。利用者は毎週およそ30名程度。参加する利用者からは、毎回のこの日が待ち遠しい、みんなと会えて楽しい、教室に参加してから体調が良くなったなどの声が寄せられている。副会長の坪井さんは、「介護保険を使わなくて済む元気な高齢者を増やしていきたい。要支援者や要介護2以下の人はこれから地域が受け皿となっていくと見込まれるので、こうした活動は今後、どの地域でも必要となっていくと思う。」と話している。



いきいき教室の様子

### 3 学童保育事業（みさとっこCLUB）

「地域の子どもは地域で育てる」という思いのもと、子どもを持つ若い親世代が安心して仕事に専念できるよう、授業が終わった子どもたちを保護者が迎えに来るまで、指導員の指導のもとで預かっている。子どもは宿題をしたりおやつを食べたりして過ごしている。夏休みなどの長期休暇にはバーベキューやイチゴ狩り等も実施している。利用者が増えてきているため、サポーター1人当たりの負担が大きくなっており、保育士・教員資格を有する方など、サポーターの人員確保が課題となっている。



みさとっこCLUBの様子（夏休み）

## ポイント 自分たちの手で自分たちの地域を住みやすくしようという住民主体の助け合い

地域の中で支援ができる（したい）人と支援を受けたい人をつなぎ、地域住民が助け合える仕組みが作られている。「みさと愛の会」のスタッフの皆さんは、自分たちの手で事業を企画して活動していることにやりがいを感じ、自分たちの地域を住みやすくしようと積極的に取り組んでいる。ボランティア会員やスタッフを確保・育成し、住民同士の助け合いの取組を継続・充実させ、いつまでも安心して暮らし続けられる地域づくりを目指している。

## 今後の展望

今後、地域の高齢者にとっても、子どもを持つ若い世代にとっても支援のニーズは高まり、利用者が日に日に増えていくことが予想される。活動を継続・充実させていくためには、サービスを提供するスタッフやボランティア会員を確保していくことが必要である。活動の意義ややりがいを地域の住民で共有し、地域全体で支え合う取組に広げていくことが求められる。

## ぎふ地域の絆づくり支援センターからのお知らせ

### 「地域リーダー育成講座」を開催しました

地域活動団体の役員や地域活動に関心のある方を対象に、「地域住民をまとめ活動をリードしていくことができる人材の育成」をテーマとした3回連続（11月18日、12月2日・16日）の実践的な講座を高山市で開催しました。ファシリテーションのポイント（議論の広げ方と収め方、記録による議論の見える化、参加者の役割分担など）や、発想を広げる手法としてのワールドカフェ、住民が参加したくなる会議を作るために必要な要素・準備などについて、ワークショップを通じて体験的に学びました。



講座の様子